1984年１月29日(日)２時
新宿文化センター

新交響楽団第102回演奏会

モーツァルト/交響曲第40番ト短調K.550
W. A. Mozart/Symphony No.40 G-minor K.550

Ⅰ.Allegro molto
Ⅱ.Andante
Ⅲ.Menuetto (Allegretto)
Ⅳ.Allegro assai

伊福部　昭/オーケストラとマリムバの為の ラウダ・コンチェルタータ
Akira Ifukube/Lauda Concertata per Orchestra e Marimba

ショスタコーヴィチ/交響曲第５番ニ短調作品47
D. Shostakovich/Symphony No.5 D-minor Op.47

Ⅰ.Moderato-Allegro non troppo
Ⅱ.Allegretto-Scherzo
Ⅲ.Largo
Ⅳ.Allegro non troppo

指揮：芥川也寸志　マリムバ：安倍圭子

安倍圭子

東京学芸大学音楽科卒、同専攻科修了。朝吹英一、今村征男、小宅勇輔らに師事。68年オリジナル曲のみによるリサイタルで芸術祭奨励賞を受賞、以来、マリンバの可能性の追求とソロ楽器としての確立を目標に活動を続けている。多くの作曲家が彼女の為に曲を書き、また古典から現代、さらにポピュラー曲まで幅広いレパートリーをもつ。現在、ソロ演奏やオーケストラとの協演の他、東京五重奏団を主宰し、さらに桐朋学園、相愛女子音楽大学で指導にあたるなど、多忙をきわめている。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～91)

交響曲第40番ト短調Ｋ.550

作曲年代：1788年７月　ウィーン
初　　演：不明
楽器編成：フルート１，オーボエ２，クラリネット２，
　　ファゴット２，ホルン２，弦５部
演奏時間：約26分

1788年，モーツァルトは生活上の貧窮がますます深刻なものとなってゆく中で，全交響曲の最後を飾る３曲，39番，40番，41番を，わずか２ヶ月足らずの間に一気に書き上げた。19世紀ドイツの音楽学者Ａ．Ｗ．アンブローズが「純粋な音楽としてこれほど完全なものが果して他に存在するであろうか」と評したように，純化された音楽美の結晶ともいうべきこれらの作品は，それぞれ全く異った性格をもっている。明かるく快活な中にも暗さを秘め，「白鳥の歌」にも例えられる39番，ギリシャの神ジュピターの名にふさわしい古典的で壮麗かつ崇高な趣きをもつ41番，そしてその間にあって40番は同じト短調の25番と共に唯２曲のみの短調による交響曲であり，暗い悲劇的な性格をもっている。モーツァルトにとって，このト短調は悲愴美を表わす調性とされ，この40番にあって，この悲愴美は情熱的，かつ抒情的に極限まで昇華され，古典交響曲の金字塔を築くと共に，来たるべきロマン派時代をも暗示している。

伝統的な楽章構成をとるこの交響曲は，変ホ長調の第２楽章を除き，短調で書かれ，きわめて緊密な構成をもっている。大胆な転調，表現的な和声法などが多用されていることも大きな特徴であり，主題の旋律の動きや強弱法，そして楽器編成にも緊張したひびきがたたえられている。なお，当初この曲にはクラリネットが用いられていなかったが，のちにオーボエのパートにいくらか修正を施し，２本のクラリネットが加えられ，現在，一般的にはこの第２稿が演奏されている。

第１楽章：アレグロ・モルト　２／２拍子　ソナタ形式
序奏部はなく，ヴィオラの伴奏によって，ヴァイオリンがいきなり第一主題を奏する。この旋律を基に，多彩な変化と展開がくりひろげられてゆく。

第２楽章：アンダンテ　６／８拍子　ソナタ形式
ヴァイオリンの慰めるような旋律に，木管楽器がのびやかにからみあい，ふしぎな静寂の漂う，しっとりと落着いた楽章である。

第３楽章：メヌエット　アレグレット　３／４拍子
シンコペートされた固いリズムと，カノン風な動機の取扱いによって，強い緊張感を作り出している。なだらかなトリオは，再現するメヌエットを，さらに鋭いものにしている。

第４楽章：アレグロ・アッサイ　２／２拍子　ソナタ形式
起伏の激しい曲想が，大胆な転調を伴って，ドラマチックに展開されてゆく。

伊福部　昭（1914～　　）

オーケストラとマリムバの為のラウダ・コンチェルタータ

作曲年代：1976年７月
初　　演：1979年９月12日山田一雄指揮　新星日響第36回定期演奏会（創立10周年記念作品）
　　マリンバ独奏安倍圭子
楽器編成：ピッコロ，フルート２，オーボエ２，コール・アングレ，クラリネット２，バスクラリネット，ファゴット２，コントラ・ファゴット，ホルン４，トランペット３，トロンボーン３，テューバ，ティンパニ，大太鼓，キューバン・ティンバレス，トム・トム３，ハープ，
　　独奏マリンバ，弦５部
演奏時間：約23分

1979年９月12日，新星日響の創立10周年記念作品として，山田一雄指揮，安倍圭子マリムバ独奏によって初演され，81年１月にはニューヨークのカーネギーホールで，安倍圭子の独奏により演奏された。

初稿は，1976年７月19日に脱稿されたが，初演に当って，マリムバのパートに僅かながら改訂が加えられた。

一楽章形式がとられている。

作曲者はこの作品に次のような言葉を寄せている。

ラウダ・コンチェルタータとは，司伴楽風な頌歌と言う程の意ですが，この作品では，マリムバとオーケストラとの協奏の形がとられています。

ゆるやかな頌歌風な楽案は主としてオーケストラが受けもち，マリムバは，その本来の姿である打楽器的な，時に，野蠻にも近い取扱いがなされています。

この互いに異なる二つの要素を組み合わせること，言わば，祈りと蠻性との共存を通じて，始原的な人間性の喚起を試みたものです。

なお，当団では，1980年４月６日，「日本の交響作品展－４　伊福部昭」において，芥川也寸志指揮，安倍圭子マリンバ独奏によりこの曲を演奏した。

ドミトリー・ショスタコーヴィッチ(1906～75)

交響曲第５番ニ短調作品47

作曲年代：1937年秋

初　　演：1937年11月21日　ムラヴィンスキー指揮
レニングラード・フィルハーモニー

楽器編成：ピッコロ，フルート２，オーボエ２，クラリネット・ピッコロ，クラリネット２，ファゴット２，コントラ・ファゴット，ホルン４，トランペット３，トロンボーン３，テューバ，ティンパニ，大太鼓，小太鼓，トライアングル，シンバル，タムタム，木琴，グロッケンシュピール，ハープ２，チェレスタ，ピアノ，弦５部

演奏時間：約40分

交響曲という形式はハイドンによって完成され，以来管弦楽曲の主流をなしていた。しかし時代が下がり，作曲家がより自由で，多彩な表現を求めるようになるに従って，ソナタ形式や４楽章構成といった交響曲の厳格な約束事は，むしろ束縛とされ，しだいにその数を減していった。ドビュッシー（1862～1918）は1901年，交響曲は過去のものと述べ，一曲も作曲していない。また，マーラー（1860～1911）は，第８番(1906)と第９番(1910)で，交響曲の形式を極限まで高めると同時に，その崩壊をまねき，Ｒ．シュトラウス（1864～1949）は，交響曲と名づけながら，はるかにその形式を超え，むしろ交響詩というべき「家庭交響曲」(1903)，「アルプス交響曲」（1915）作曲している。

このような時代にあってショスタコーヴィチは，1925年の第１番以来，15曲の交響曲を作曲した。この中には，合唱を用いたカンタータ風の第13番「バービー・ヤル」や，独唱と室内オーケストラによる11楽章形式の第14番「死者の歌」なども含まれるが，最後の第15番は再び古典的な交響曲の形式をもつ。西欧諸国とは，体制の異なるソヴィエトでの芸術活動に対する制約や，音楽に求められるものの違いなどによるやむを得ざる保守的形式とも言えようが，むしろ，彼独特の長大で起伏に富んだ楽想は，交響曲という形式でこそ生かされるものである。

この第５番は，1934年に初演されたオペラ「ムシェンスク郡のマクベス夫人」が反社会主義的であるとのプラウダ誌の批判にこたえるべく作曲され，終楽章は，人民の輝かしい勝利をうたいあげるものであるといわれてきたが，1979年，アメリカで刊行された，ソロモン・ヴォルコフ編「ショスタコーヴィッチの証言」(死後，国外で発表することが条件とされていた）の中で，彼自身，第５番の主題は「強制された歓喜」であると述べている。しかし，このように複雑な状況の中で悩みつつ，31才のショスタコーヴィチが，強い意思と情熱，そして長い準備期間を経て作曲したのが，この第５番であり，確固たる構成，壮大な規模，高い意図をもつ真に偉大な作品に仕上げられている。

曲は古典的な４楽章形式がとられているが，緩徐楽章とスケルツォ楽章が入れちがっている。また，一定のリズムが，楽器をかえて随所に用いられ，リズムの面で全体に循環形式的な統一感をあたえている。

なお，日本での初演は，1949年２月14・15日，山田和男指揮による日本交響楽団第304回定期公演である。

第１楽章：モデラート－アレグロ・ノン・トロッポ

暗く悲劇的なテーマがカノン風に呈示され，続く第２テーマと共に自由に展開される。速度をあげて行進曲風のクライマックスをつくるが，次第に力を落とし，最後は消えるように終る。

第２楽章：アレグレット

低弦部の逞ましい主題があらわれ，木管がこれに答える。中間にトリオをはさむ典型的なスケルツォ楽章。

第３楽章：ラールゴ

金管を用いず，弦と木管を主体にして，悲哀をこめた美しい旋律がうたわれる静かな楽章。

第４楽章：アレグロ・ノン・トロッポ

管楽器の強奏による導入ののち，ティンパニのリズムにのって金管楽器が勇壮な行進曲風の主題を奏し，さらに激しく高まり，強烈なクライマックスがもたらされる。第３楽章を回顧する静かな中間部ののち，再び力強い行進曲となり，圧倒的な力で堂々と閉めくくられる。

MUSIC
PLAZA
LTD.,

Violin Dealer, Makers, Repairers, Appraissal
Rental Hall & Studio

東京都品川区上大崎３－１－４ 小杉ビル４Ｆ　03(440)5132
名古屋市千種区内山１－18－10 音楽会館３Ｆ 052(733)0035

UMEZAWA VIOLIN

磨かれた音をお届けします



初級用から古銘器まで梅沢楽器は豊富に揃っています。
ミュージックローンのご利用を！(3～36回)

梅沢オリジナルUバイオリン

株式会社 梅沢楽器店
〒105 東京都港区新橋２－14－８
TEL.(03)591-0585・4970
●営業時間：午前10時～午後6時
（日曜・祭日もぜひどうぞ）

